

## 第41回環境審議会議事要旨

日 時 令和4年7月5日（火）

午後2時から3時35分まで

会 場 秋田市本庁舎5階第3、4委員会室

### 1 出席者

(1) 秋田市環境審議会委員（15名中11名出席）

石黒尚哉委員、石場加奈栄委員、岩田豊人委員、上野智明委員、菅原勝康委員  
菅原拓男委員、杉山秀樹委員、高橋敦子委員、津村守委員、福岡真理子委員  
蒔田明史委員

(2) 秋田市環境部

黒澤亮環境部長、中川裕行環境部次長

環境総務課：村上義紀課長、赤津順子課長補佐、畠山高朗副参事

齋藤正美主席主査、藤田佑介主席主査、田近真由子主査

伊藤雅人主査、塚本晃太主任、向川秋紀技師

環境都市推進課：佐藤俊主席主査

環境保全課：小野文彦課長、作田立子課長補佐、佐藤善克主席主査

大淵啓矢主任

### 2 次 第

(1) 開 会

(2) 環境部長あいさつ

(3) 委員紹介

(4) 職員紹介

(5) 議 事

会長および副会長の選出

秋田市環境基本計画の中間見直しについて（説明）

大気環境測定局の廃止について（諮問）

(6) その他

(7) 閉 会

黒澤環境部長のあいさつに続き委員紹介、職員紹介を行った。その後、会長および副会長の選出を行い、会長のあいさつの後、議事に入る。

会長は菅原拓男委員、副会長は菅原勝康委員。

秋田市環境基本計画の中間見直しについて、環境総務課より説明を行い、質疑が行われた。

最後に、大気環境測定局の廃止について、環境保全課より説明を行い、質疑が行われた。

#### 【質疑内容】

#### 5 (2) 秋田市環境基本計画の中間見直しについて

委員	最新のグラフまたはデータの更新は項目によっては何年から何年までの年度がまちまちだが、更新されたデータの場合は何年から何年までの更新データなのか、それとも引き継ぎ10年等の更新を考えているのか。
環境総務課	計画が10年計画となっているので、10年前から比較できるようになるべく前のデータも消さないで暦年でアップデートしたいと考えている。
委員	資料1 No.25の事業者に対して減量計画書を提出させる根拠は何か。
環境総務課	法律に基づいた計画書の提出となる。
委員	根拠を記載してもらったほうが理解しやすい。
環境総務課	更新の際はなるべく根拠法を記載したい。
委員	資料1の生物多様性地域戦略を内包するという記載について、国の国家戦略、県の地域戦略と同じように秋田市生物多様性地域戦略をつくるということか。
環境総務課	1つの計画として立てる手法、他の計画に内包する手法があるが、他の自治体でも他の計画に内包している事例があり、秋田市としても基本計画にまとめたいと考えている。

委員	秋田県生物多様性地域戦略と同じ項目を盛り込んで作成するのか。
環境総務課	秋田県生物多様性地域戦略を参考にしながら、環境基本計画の記載を見直して生物多様性地域戦略としたいと考えている。
委員	秋田市生物多様性地域戦略として独立できるレベルのものを作成するのか。
環境総務課	環境基本計画に内包することにはなるが、秋田市生物多様性地域戦略としても公表するので、この戦略に基づいて今後の生物多様性についての施策を推進していきたい。
委員	脱炭素社会とはどういうことか、イントロダクションにどういう社会をつくるのか記載しないと説明する立場としてはよくないのではないか。具体的に細かいところに入る前に全体像として示さないと理解できないのではないか。
環境総務課	実際は化石燃料を使わない社会ということだが、意味がわかるような形で記載したい。
会長	資料 1 No.24、No.31に記載のプラスチックごみの処理について今後市としてどのような計画をしているのか。
環境総務課	御所野の溶融炉は令和14年で更新の予定となっている。秋田市として今年度中に方向性をとりまとめたいと考えている。検討の結果が間に合えば本計画にも記載したい。
委員	資料 1 No.11の総排出量を純排出量に変える意図はどうか。
環境総務課	総排出量はそれぞれの温室効果ガスの排出量の合計、純排出量はその値から森林吸収量を差し引いたものである。国の目標も純排出量で設定されており、このタイミングで秋田市の計画も純排出量に統一するものである。
委員	SDGsがこれだけメディアや環境教育の場で取り上げられているの

であればイントロの部分で触れてはどうか。

環境総務課

可能であればSDGsの何番に該当するか記載していきたい。

委員

小学校の子供たちで一番大事なのは自分たちの地域を自分事として考えることだと思う。実際に足を運ぶのもいいが安全面も考慮し、ICTを活用して地域にある素材を教材化し、タブレットで環境学習できる点も盛り込んでもらいたい。

環境総務課

環境学習の最新の取組も盛り込みたいと考えている。

委員

自然と人間を別のものとして捉えるのではなく、一体的なものとして捉え、どのように自分ごととして考えられる表現ができるかが重要である。

委員

資料1 No.25、No.31のプラスチック削減について実務的にどこまで仕事が進んでいるのか。

環境総務課

実務ではコストの比較、処理施設がどこまで持つか担当の中でいくつかパターンを決めてシュミレーションしている。

委員

秋田市として一般廃棄物のプラスチックをどうするか理念、スケジュールとしてどこまでどうするか計画に盛り込んでもらいたい。

環境部長

プラスチックの分別収集については秋田市としてもやらない選択肢はない。いつからどうやるかについて、つめている段階である。御所野にある溶融炉はプラスチックを溶融する前提のものであり、プラスチックを分別に加えるという市民の新たな負担もある。総合的に勘案しながら検討しているところであるが、関係する要素が大きいため慎重に検討を進めているところである。

委員

住宅街の空き家にハクビシンが出入りして近隣住民が不安を感じる例がある。自然保護の視点だけでなく、安全な生活を守る視点も忘れないで欲しい。

環境総務課 | そういふ一面もあることを留意して計画を作成したい。

### 5 (3) 大気環境測定局の廃止について

委員	大気環境測定局の測定は、具体的に何月何日までを想定するのか。
環境保全課	令和5年3月31日の秋田火力発電所の廃止と同時に、測定を終了する予定である。
委員	建物は環境保全課の所有とあるが、廃止後、建物は撤去するのか。
環境保全課	建物は環境保全課で解体し、更地に戻した上で、土地を所有者に返還する予定である。
委員	最近、火力発電所の再稼働という流れがあり、秋田火力発電所が再稼働することについて検討はしたのか。
環境保全課	電力が逼迫している現状下において、秋田火力発電所に確認したところ、再稼働の予定はないとの回答であった。将来、大気環境に影響を及ぼす可能性のある工場等の立地が計画された場合には、適時、監視体制の見直しを行うこととしている。
会長	事務局からの説明を聞いた上で、学校生活において何か感じることや、秋田火力発電所が話題になることはないか。
委員	話題になることは特にない。
会長	令和5年3月31日に秋田火力発電所4号機が廃止になる。その監視目的で設置された2局であるが、秋田市は全国的な基準からすると4局で満足するところ、現在廃止する予定の2局を加えて10局設置されている。また、当局から大気環境に影響を及ぼす可能性のある工場等の立地が計画された場合には、適時、監視体制の見直しを行うこととするとの説明もあったことから、市長からの諮問である秋田火力発電所の廃止と同時に2局を廃止することについて、了とするということではいかがでしょうか。

もしよろしければ、本日の議論を踏まえた上で、答申内容については事務局と調整しますので、私に一任していただければと思いますが、いかがでしょうか。

委員

異議なし

以上